

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第7回 有効高さ評価モデル分科会 (A1SC7) 議事録(案)

1.日時 2010年1月21日(木) 14:00~16:30

2.場所 (財)電力中央研究所 大手町ビル7階 第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 市川(副主査), 込山(幹事), 安達, 近藤, 山澤, 日高, 永井,
館野, 大場, 河合, 福田, 筑紫, 佐田, 鈴木, 沼田, 安田 (17名)

(欠席委員) なし

(常時参加者) なし

(傍聴者) 樋口, 上杉, 菊間 (3名)

(事務局) 岡村

4.配布資料

A1SC7-1 前回議事録 (案)

A1SC7-2-1 有効高さ評価モデル実施基準 コメント集約表

A1SC7-2-2 数値モデル計算実施基準 (案)

A1SC7-3 附属書 F、G [暫定案]

5.議事録

(1)出席委員の確認

込山幹事により 17 名の委員中、17 名の委員の出席があり、定足数(12 名以上)を満足していることが確認された。

(2)前回議事録の確認

込山幹事より A1SC7-1 に基づき第 6 回有効高さ評価モデル分科会議事録(案)が説明され、次を修正することにより内容が了承された。

・(4)「シミュレーション信頼性タスク」検討内容への対応について ○本実施基準の V&V への対応案の記載を明確化の観点から修正する。

「…現段階では対応案が整理されていないことから、再度事務局で検討を行うこととなった。」

→「…現段階では対応案が整理されていないことから、再度関係者で検討を行うこととなった。」

(3)実施基準原案（本文）の検討

込山幹事より A1SC7-2-1 及び A1SC7-2-2 に基づき、実施基準原案（本文）に対する各委員から寄せられたコメントについて説明があり、コメントの内容について検討を行った。主な議論は以下のとおり。(No.は A1SC7-2-1 の No.と一致、新規は新たなコメント)

- ・ No.5：注書きと参考文献の区別の方法については、現在原子力学会で検討中のためその検討結果に基づいた修正を行う。
- ・ No.6：“増設建屋の影響を確認した数値モデル計算結果から”等文言を追加し、わかりやすくする。
- ・ No.8：“「Validation（妥当性確認）」を確認する。”→“「Validation（妥当性確認）」を実施する。”に変更する。
- ・ No.9：“計算モデル”→“計算コード”に変更する。
- ・ No.10：“使用に対して実世界の物理現象を正しく”→“使用にあたって風洞実験の結果を精度よく”に変更する。
- ・ No.26：幾何学的形状の説明が不十分であるため文言を追加する。
- ・ No.27：“1/10 以上の高さの山が存在する場合は、その範囲まで再現する。”に変更する。
(風洞実験実施基準に合わせる)
- ・ 新規(P.1 7-9 行)：“…敷地の地形が複雑な場合又は放出源に対する建屋の影響が著しい…また、原子炉施設の増設時で、大気拡散評価において新たに設置する建屋及び地形の改変の影響が著しい…”

→“…敷地の地形が複雑な場合又は放出源に対する建屋等の影響が著しい…また、原子炉施設の増設時で、大気拡散評価において地形の改変及び新たに設置する建屋等の

影響が著しい・・・”に変更する。

- ・ 新規(P.3 下 1-2 他)：横方向の計算領域について規定ができないか検討する。
- ・ 新規(P.6 6 他)：“建屋地形計算” → “建屋_地形計算”に変更する。

(4) 附属書の気流設定条件について

佐田委員より A1SC7-3 に基づき、附属書に掲載予定の気流設定条件の検討状況の説明があった。

(5) 今後の予定

- ・ 3月4日(木)に開催予定の基盤・応用技術専門部会にて本分科会の中間報告を行う。
- ・ 次回第8回分科会を 3月30日(火)14時～開催することとした。

以上